善導大師一千年忌と其時代

伊藤祐晃

我邦に於て善導大師の年忌を擧行する事は、恐らく延寶八年庚申の歳その一千年忌に際し擧行せしに始まるかと思ふ、素より個人として或は有志數輩が其鴻恩に對して修行せしことあるは言ふ迄もなき事ながら今は一宗擧つて奉修せしは先づ此歳を以て嚆矢とすべきか。

抑も善導和尙の入滅は大唐高宗皇帝の永隆二年三月で春秋六十有九とあるから、此年より計算して我朝人皇百十二代靈元天皇の延寶八年が正しく一千年に相當するので、其十年前の寛文八年頃から其準備に取りかゝりいとも盛大に擧行されたのである。

其一千年の聖忌が本宗の高祖として、而も十年以前から準備されて朝野一齊に其遠忌が勤修されたことは寔に未曾有の盛擧なりと云ふべきである。この延寶年度の遠忌が如何なる意味に於て勤修されたか其朝野に於ける反響が如何程なりしか、一宗最高の意志は如何なる目的なりしか、今月より二百四十有餘年前の我宗上下の光景は如何なる有樣でありしかを書いて見ようと思ふのである。

さし當り善導の示寂日に就いて古來二說ある。それは新修往生傳の善道の傳に、

「忽然に微疾す掩室怡然として長く逝く春秋六十有九、時に永隆二年三月十四日」とあり

又帝皇年代錄には

「高宗皇帝の永隆二年三月二十七日善導和尙亡す」と新修傳には道の字につくりて、帝皇年代錄には導の字につくりて寸あり、道と導と其字異なりと雖も、入滅の年月大きに同きが故に同師とす。

「法然上人御在世の砌、十四日、二十七日の論出で來りける時、上人の玉はく權者の死に樣は機の前に不同也、然れば十四日二十七日いづれを是、いづれを非とすべからず、但し善導は彌陀の化身なり、若し然らば十四日は今少し彌陀の義に隣れり、然れば源空は十四日を以て善導遷化の日にもちひんと云々仍予が先師法蓮上人、長樂寺律師等みな十四日をもちひ玉ひき」と信瑞は廣疑瑞決集の第一に云へり。

古來の先德皆道と導とを同一人なりとし、而も十四日說は元祖の說なりと謂ふべし。かゝる次第で一千年御忌も延寶八年庚申の歲三月十四日を中心として嚴修された事は事實である。

然るに善導和尙に關する尊稱が古來また一定して居らなかつた。我宗書を見るに其一千年忌迄は多くは善導和尙と云ひ、或は善導禪師又は善導阿闍梨等と稱呼し、宗祖二代三代までは多く善導和尙と稱せられて居つた。然るに此一千年忌の爲めに善導の別傳を纂註せられた獅子谷の忍澂上人が始めて善導大師別傳纂註と名けられた。善導の尊稱は此一千年忌に輿論一定して沙門葵翁之を代表して始めて善導大師と稱呼する事となつたのであるが、然らば此一千年忌に於ける第一の記念は善導大師の稱號の一定せ

ることを記憶せねばならぬ。

さうして茲に亦一つ大いに考へなければならぬ一件がある。善導大師の一千年忌は我宗上下相一致して寺院を創建し、傳記を整頓し殊に民間布教に留意し、其十年以前から之に着手した一條は特筆大書して後昆に傳へねばならぬ卓見である。先づ第一に善導記と名付られたる淨瑠璃が作られて其版本が、淨瑠璃本の版元たる洛陽二條通寺町西入山本九兵衛版として起され大に民間に鼓吹されたのが寛文十年の三月である。夫より「二河白道」「念佛往生記」などと云ふ淨瑠璃が續出して居る。共に國書刊行會に於て聚錄されて居るが「善導記」の古版は龍谷大學の禿氏祐祥師の所藏本で一見することが出來る。

善導大師一千年忌の眞意義は無論大師の淨土教に關する前古無比の新解釋に基き、所謂善導以前に善導なく善導以後善導なき特殊の古今楷定にあるは言ふ迄もなき次第ながら、亦本宗上下の一に希望する一事件が伏在して居るのである。

夫れは我元祖法然上人の尊稱が未だ定らず、由來法然上人で稱呼されてきたが上人とは隱遁者の稱號であつて、一宗の開祖としては我邦では物足らぬ感があるので是非何とか相當な尊稱の宣下ありたき一件である。大師と謂ふ稱號は素より尊き號であるが、日本に於ては特殊の意味を含む尊號で支那や朝鮮とは大に其趣を異にして居るので、日本の諸宗の開祖は概ね大師號が宣下されて居る次第であるから是非本宗に於ても元祖法上人に大師號の宣下あらん事を希望することは我宗上下均しく翹望する處である

是より先き此件につき後奈良天皇の天文年間、種々朝廷に執奏せしが當時青蓮院の尊鎮法親王の御執奏によりて光照大士と諡し勅書を賜ふたのであるが當寺法親王の御狀は左の如し。

就二當院開山堂額義一、勅諡事令二執奏一之處、可レ爲二光照大士一由被二仰定一間、則題レ之候珍重候內々可レ被レ相二觸門徒中一候哉、猶泰憲法眼可レ申候也。

八月二十五日（花押）

知恩院方丈

此親王の狀は現に知恩院に襲藏されて居る。けれども是れは事後の彌縫策で、是より先き光照大士たるべき旨勅諡宣下ありしも其綸旨は或事情の爲め有哉無哉にされたので、諺に謂ふ綸言汗の如しの言葉もこの時は無効であつた、只添書とも謂ふべき親王の御筆あるのみで朝廷の本書もなく又廟所の額もない筈である。天文八年巳亥の嚴助往年記は其眞相を告白して居る。

十月比歟法然上人並號事自二知恩院一依レ被レ申二入青蓮院一被レ申レ沙二汰光照菩薩可レ號云々山門大衆內々依レ有二造意儀一宣旨被二召返一云々比興事也

山門大衆の造意猶此頃までも云々ありて光照大士の號も尙召返さるゝ悲運に際會したのである。

爾來幾星霜宗門上下が怨を呑んで此恥辱を雪がむと苦慮したのである。然るに此度善導和尙の一千年忌が廻り合せ我宗は將軍家の菩提所を江戸增上寺と定められ且つ世は旣に德川四代の天下である此時斯

際年來の宿意を果さんものと先づ善導和尚の尊號を一定して之を大師と號し、其前々年には德川家京都の菩提所たる知恩院の敷地を擴張し祇園神社の神境南北十二間、東西百八十間を割いて知恩院の境地となすなど今の三門前の廣路卽ち新門前通りの擴張が夫れである。旣に叡山所轄の祇園神社の神境さへ知恩院に轄愛して此時は何等の造意もなかつたのである。時勢と云ふものは爭はぬものであつて、百萬遍の再興は偶然此時に際會したとも謂へようが、筑後善導寺の重修から、讃岐法然寺の創建、瓜連常福寺の移轉、獅子谷法然院の創立等數へ來れば淨土宗の宗勢は實に偉大の進展を見、目出度く延寶八年庚申三月十四日が迎へられたのである。

けれども我宗は今一つどうしても成効せねばならぬ一大事が殘つて居る。夫は他事ではない元祖法然上人にまだ諡號がない。唯此れのみが一宗上下の一大恨事である、善導大師の尊號も宣旨ではないが、天台の私號大師の如く世間の輿論として大師號に一定したので是の次には元祖法然上人に大師號の勅諡が宣下して貰ひたひのである。

善導大師の一千年忌を終了して最早拾有餘年を經た。時の御菩提所一宗の錄所たる江戸增上寺では偏へに其機會をねらつてゐた。然るに德川も五代將軍として襲職された綱吉公は壯年頗る好學で元祿四年には六月廿九日增上寺貫主古巖以下府內の宿老二十一人を城中に請して論議せしめるなど、是れは寬永已後殆んど五十年間も絕て無かつた事で、爾來五六年每年かゝる盛事が行はれた。殊に元祿七年閏五月

には將軍增上寺に詣り治國利民の法問を聽き、公亦自ら中庸天命の章を講じたなど全く好學の然らしむる處で隨つて元祖法然上人を理解するの機會に相遇することが出來たのである。愈々元祿十年丁丑正月十八日、元祖滅後四百八十六年圓光大師の敕諡を賜つたのである。爾來十五年後の正德元年の五百年忌の東漸大師と五十年目毎の加諡は明治年間迄其慣例を襲ふ事になつたのは我宗萬代の一慶事である。

インターネット公開許諾のない文章には墨消し処理を施しています。